

石破政権は岸田前政権の「原発再推進策」を中止すべきだ 本気で「防災」と言うなら、原発の廃炉こそが必要だ！

石破茂氏は、8月の総裁立候補表明では「原発ゼロに近づける努力」に言及して、「3・11の教訓」から原発災害の恐ろしさを強調し、原発の安全性の問題を指摘して、再エネ開発の強化を主張した。しかし政策集では「安全を大前提とした原発の活用」と明記し、9月20日には岸田原発推進政策の継承を約束することで岸田派の支持を取り付けた。一方で石破氏は、日本での災害の頻発・激甚化を強調し、対策として「防災立国」を強調している。

「地方を守る」、「防災立国」を強調するのなら、地域を衰退させ、核の危険性を高める原発こそ廃止すべきである。多くの原発は地方の衰退を利用して政府と電力会社によって押し付けられた。電力会社は地域の自治体を金縛りにしてきた。福島事故で明らかになったように、安全性に投資されてこなかったこと、もし安全を考えたら原発は経済的に成り立たないことが明らかになっている。原発が生み出す放射性廃棄物の処理策はまだ何も出来ていない。

「全ての原発を廃炉に」の声を挙げ続けよう

自民党は10日に発表した衆院選の公約で、「原発依存度を可能な限り低減する」を削除し、「最大限活用する」に置き換えた。石破政権に対して、「柏崎刈羽原発再稼働反対」、「女川原発再稼働反対」「老朽原発は廃炉に」の要求を突き付けよう。**2024年度中に改訂予定の「エネルギー基本計画」で「岸田原発推進政策の継承」を止めさせよう。**

脱原発首長会議「女川原発再稼働反対」

東北電力は女川原発2号機の安全対策に約5700億円を投じているが、非常設備の誤作動や水漏れが発生するなどして、発電予定は11月に延期されている。全国の市区町村長と経験者など90人が参加する「脱原発をめざす首長会議」は9月22日から石巻市で学習会、そして現地視察を行い、女川原発2号機について「再稼働計画に反対する」との緊急声明を発表した。

韓国国会が「汚染水投棄中止」を決議

韓国では2022年に尹錫悦大統領が政権を奪取したが、国会では野党が多数を占めている。今回、韓国国会では「国民と水産業の保護のために日本政府が原発汚染水の海洋投棄を中止し、韓国政府が水産業を保護することを求めた決議」を採択した。今回の海洋投棄がロンドン条約議定書違反であることを明らかにすることを求めた。

石破新政権に見え隠れする「旧統一教会」の影 「裏金」問題だけでない自民党政権の腐敗と墮落

石破内閣の旧統一教会関係者

内閣	10人/20人	50%						
石破茂 (首相)	牧原秀樹 (法務)	加藤勝信 (財務)	小里泰弘 (農林)	武藤容治 (経産)	坂井学 (国家公安)	赤沢亮正 (経済再生)	城内実 (経済安保)	伊東良孝 (沖縄北方)
副大臣	8人/26人	31%						
政務官	11人/28人	39%						
議員	179 (+?)人 / 372人	48%						

今回の自民党の総裁選挙では、石破氏が黨員票では優位と言われていたのに、1次投票で高市候補が黨員票でも石破氏を上回った。石破氏は菅氏、岸田氏に頼ることで2次投票では勝利した。高市氏が黨員投票で1位となった裏には自民党の黨員の変化が現れている。

石破政権の「けじめ」の問題では「裏金議員」を公認するかが問題とされ、「旧統一教会」問題はマスコミを含め大きく扱われなかった。

石破内閣には10人の関係議員

組閣後に牧原法務相が自民党調査にも隠していたが関連イベントに自ら12回、秘書が25回参加が明らかになった。他にも閣内には石破首相を含め、選挙支援を受けていた坂井学国家公安担当、会費を支出していた加藤勝信財務相など10人が接点を持っている。

副大臣や政務官の3割以上もが統一教会と何らかの接点を持っている。**石破政権は旧統一教会との癒着について徹底した調査と絶縁を行うべきである。**

高市氏が黨員投票で勝利した

自民党黨員数は70万程度といわれながら減少傾向である。高市氏はこまめに各地域で集会を開き極右方針を拡散し、黨員、支持者を拡大している。そして年間入党者獲得の2位となっている。自民党の体質が変化しようとしている。

軍拡と戦争に反対し、脱原発をめざす政治を実現しよう

京都大江山ニッケル鉱山で中国人追悼

(京都 10/3)
戦時中にニッケル鉱山に強制連行され死亡した中国人12人の追悼のための「日中悠久平和祈願祭」が京都で行われ、地元行政関係者と日中友好協会、駐大阪中国副総領事が参加した。

米港湾スト「6年で62%賃上」で妥結

(朝日 10/5)
47年ぶりの大規模ストで闘っていた米国の港湾労働者の労働組合は、経営側と「6年で62%の賃上げ」で妥結した。米東海岸からメキシコ湾までの港の4・5万人がストライキを行った。引き続き組合は「自動化技術導入など」の労働協約の改定交渉を行う。

大阪ハンセン病「外島保養院」の慰霊祭

(神戸 10/5)
1907年(明治40)に大阪湾岸の0m地帯に「外島保養院」が建設され、その後移転が計画されたが移転先地域の反対によって移転できず、原位置で施設を拡充した。1934年の伊勢湾台風で5mを超える高潮によって壊滅的な被害を受け、196人の犠牲者を出した。それから90年、跡地で慰霊祭が行われた。

定検中の伊方3号で不具合のため停止

(朝日 10/7)
定期検査中の伊方3号機で、原子炉内の中性子の量を測定する装置からのデータが、今回取り換えた計測盤に表示されない不具合が続いている。そのため、四国電力は当初の予定以上に確認作業が長引くため、原子炉を停止させると発表した。

WebSite「万人坑を知る旅」の閲覧数が5万回

青木茂さんの展開されているウェブサイト「万人坑を知る旅」。中国本土における強制連行・労働は、400万人を越え、おそらく1000万人が死亡している。この強制連行の事実を知り、謝罪し、補償することが必要である。そのことは中国・韓国・朝鮮の人々と本当の友人になるためには不可欠である。

報告 10/14 不戦兵士を語り継ぐ会講演会

映像ディレクターの太田直子さんが、テニアン島、サイパン島での「玉砕」に隠された真実を現地での活動をもとに講演。埼玉会館の会場で60人を越える参加者が熱心に聴講。家族を殺さざるを得なかった民間人、「玉砕」を拒否して投稿した不戦兵士。◎詳細は次号に掲載。



案内 10/20 万博遠足だいじょうぶ



大阪関西万博は危険がいっぱい！子どもたちを連れて行ってよいのでしょうか？斉藤維新知事は失職しましたがまだまだ危険！！
日時：10月20日 開場13:30
場所：宝塚市立 男女共同参画センター・エル 学習交流室 1.2
講師：藤永のぶよ(大阪市民ネット)

案内 10/25 原発いらナイト宝塚 139回

「原発いらナイト in 宝塚」の139回は、10月25日の5時から宝塚駅連絡橋で実行します。サクソフォン演奏の下、楽しく一緒にチラシを配付しましょう。

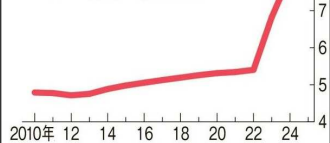
案内 10/26 さようなら原発 1000人集会



13回目を迎えた1000人集会は「地震大国日本に原発NO！・未来社会に再エネYES」を掲げて開催されます。ぜひご参加ください。
日時：10月26日(土)14時より
場所：いたみホール(阪急伊丹)
講師：北野進「珠洲と志賀原発」
飯田哲也「これからのエネルギー」

防衛費(当初予算の推移)

2025年度は概算要求



8.5兆円の2025年度軍事予算を許すな！

安倍、岸田政権によって軍事予算は拡大され、2025年度の防衛省予算は8.5兆円となった。石破新首相はタカ派の改憲推進派であり、「国防軍」への改変を主張し、最近ではアジア版NATOの創設、集団的自衛権の全面的行使、米軍との核共有さえ主張していた。戦争政策の遂行の危険性が強い。

防衛省の概算要求のポイント

- 3232 億円 目標の探知や追尾のため多数の小型の人工衛星を連携させる「衛星星座」①の構築
- 3140 長射程ミサイル搭載や対潜戦機能を強化した新型FFM(多機能護衛艦)②3隻の建造
- 1353 2030年度に運用を終える防衛省の通信衛星後継機的设计・製造
- 300 水中優勢獲得のため、潜水艦に搭載できるVLS(垂直誘導弾発射システム)③の研究
- 180 駐屯地の省人化に向けたドローンなどによる警備システムの検証
- 30 車両などを撃破できる小型攻撃用UAV(無人航空機)の取得

8月30日に公表された25年度当初予算は「敵基地攻撃」、「戦争をする」予算と言える。

先制攻撃をめざす予算

今回の予算では、敵の射程外から先制攻撃する「スタンド・オフミサイル」などの開発に9700億円、敵のミサイルを迎撃する「防空ミサイル防衛」に5379億円、ドローンによる無人攻撃システム開発に1032億円を投入。また攻撃目標の探知用の「衛星星座」の構築に3232億円。他に宇宙空間の戦争利用のために「宇宙作戦団」を創設する。

ドローンについては自爆型ドローンの取得(イスラエル企業から?)。陸上無人機、水中無人機などの開発予算も準備されている。

購入決定したトマホークなどは

防衛省はトマホークミサイルを米国から400発(2540億円)の購入を今年1月に締結、25年から27年に順次納入される。この複数年度に及ぶ契約は、単年度予算の例外とされ、予算ではその年度の負担分のみが「新規後年度負担」として計上される。そうした「後年度負担」が増加し防衛予算の約4割も占めている。

わだつみ会不戦のつどい（2024/12/7）ご案内

主催：日本戦没学生記念会（わだつみ会） 協賛：不戦兵士を語り継ぐ会

1953年秋に、学徒出陣された安田武さんが、朝日新聞の投書欄「声」に、「学徒出陣から10年、一世代を越えて我々は学徒不戦の誓いを新たにしようではないか」と投書され、その呼びかけに応じて、全国の大学・高校で集会が開かれました。今回、講師をお願いした子安宣邦さんも東大で「不戦の集い」を企画し集会を成功されました。わだつみ会はそれ以降、ほぼ毎年「不戦のつどい」を開催し、不戦の誓いと平和への思いを新たにしています。私たちは昨年、『学徒出陣』80年声明＝戦争準備行為と改憲をやめさせ、『絶対不戦』を守り抜こう』を発表しました。

安倍政権の軍拡と戦争政策を引き継ぎ、米国と一体化して戦争準備を進めてきた岸田政権のもとで、沖縄、そして全国に戦争準備が進められ、石破政権もそれを引き継ごうとしています。自衛隊の高級幹部の一部は戦争の準備として、戦死者を靖国神社に祀ることを主張し始めています。

本年の「不戦のつどい」では、90歳を超えても元気に、「天皇論—『象徴』と絶対的保守主義」、「可能性としての東アジア」を刊行された子安宣邦さんに「戦争と霊の行方」を講演いただきます。知友お誘いあわせの上ご参加ください。また地方の皆さんにはZOOMを利用してご参加ください。

日時：2024年12月7日（土曜日）午後2時～4時半（1時半開場）

会場：日本教育会館（一ツ橋）9階 901号室（東京メトロ神保町駅）

講演：「戦争と霊の行方」

講師：子安 宣邦 氏（会員・日本思想史研究）

参加費：一般800円（学生500円）ZOOM参加 カンパをお願いします

ZOOM参加：ZOOMを使用してのNET参加をご希望される方は12月2日までに事務局アドレスに、お名前と住所をご連絡ください。 info@wadatumikai.com

◆参加申し込みされた方には、12月2日までにURLとパスワード、資料を送ります。

◆参加申込された方は、「後日配信」で参観することもできます。

◆ZOOM参加される方からの、わだつみ会へのカンパは大歓迎です。

郵便振替口座：00170-0-161293

日本戦没学生記念会

講師紹介：子安 宣邦 さん（こやす のぶくに）

講師略歴：東京大学文学部卒業。同大学院博士課程 大阪大学文学部教授、1996年退官

大阪大学名誉教授。2020年まで、東京で「昭和思想史研究会」、大阪で「懐徳堂研究会」を開催。

主な著作：（その一部）

『本居宣長』岩波新書（岩波書店、1992）、岩波現代文庫

『「事件」としての祖徠学』（青土社、1990）、ちくま学芸文庫

『日本近代思想批判』岩波現代文庫

『江戸思想史講義』（岩波書店、1998年）のち、岩波現代文庫

『国家と祭祀—国家神道の現在』（青土社、2004）

『日本ナショナリズムの解説』（白澤社、2007）

『昭和とは何であったか—反哲学的読書論』（藤原書店、2008）

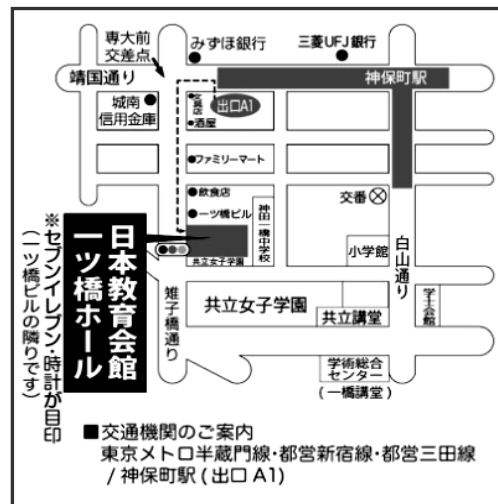
『「近代の超克」とは何か』（青土社、2008）

『日本人は中国をどう語ってきたか』（青土社、2012）

『「大正」を読み直す』（藤原書店、2016）

『天皇論 「象徴」と絶対的保守主義』（作品社、2024）

『可能性としての東アジア』（白澤社、2024）



日本戦没学生記念会（わだつみ会）

連絡先：090-3161-8677（永島）